

第2回 長野県 ICT 学び推進協議会 議事録

R4. 8. 25

学びの改革支援課

1 日 時

令和4年8月25日(木) 13:30~15:00

2 実施方法

Web 会議による

3 参加者

【信州大学】東原特任教授、島田教授、佐藤准教授、両川公認心理士
【上田市立第六中学校】藤井校長 【塩尻市立木曾檜川小中学校】山本校長
【須坂市立東中学校】北原教諭 【長野市立朝陽小学校】舞澤教諭
【佐久市立中込中学校】瀬下教諭 【塩尻市立広丘小学校】波場教諭
【千曲市教育委員会】町田様 【須坂市教育委員会】北村様
【長野市教育委員会】中田様 【佐久市教育委員会】菊池様
【塩尻市教育委員会】島津様 【飯田市教育委員会】櫻田様
【伊那市教育委員会】足助様 【小海町教育委員会】中島様
【喬木村教育委員会】長坂様
【学びの改革支援課】臼井義務教育指導係長
【北信教育事務所】清水指導主事 【東信教育事務所】橋爪指導主事
【中信教育事務所】池田指導主事 【南信教育事務所】保坂指導主事
【総合教育センター】五味専門主事
【DX推進課】永野課長
【長野県自治振興組合】大塚様
【県教委】松坂指導主事、荒井指導主事、北島指導主事、畠山主査

4 内 容

(1) 開会あいさつ

【臼井義務教育指導係長】

- ・日頃より長野県教育委員会の政策、事業にご理解、ご協力を賜り感謝。学校では、夏休みも終わり、2学期の学校生活がスタートしているかと思われる。新型コロナウイルスの第7波が予断を許さない状況の中、教育委員会、学校関係者の皆さまに、諸対応にご尽力いただいていることに重ねて御礼申し上げます。また、有識者の皆さまにもお忙しい中、ご参加いただき感謝。
- ・このあと担当からも説明があるが、この4月に行われた全国学力・学習状況調査の学校質問紙の回答と全国のGIGAスクールの進捗具合を大まかに分析してみると、長野県は
 - ① 研修機会が全国平均よりも充実している
 - ② 職員以外の専門的なスタッフから技術的なサポートが全国より受けやすい環境である

③ 授業での活用頻度になると、「ほぼ毎日」の割内が低い

④ 小学校と中学校で活用状況に差がある

という実態が見えてきている。

・また、前回の協議会で、「子どもたち全員が、クラウドによる同時共同編集により、意見交換ができる」と目標を設定頂いた。これからの2学期、まさに授業でのICTの活用を進めていきたい。長野県教育委員会としては、秋に行われる悉皆研修の「教育課程研究協議会」において、クラウドを活用したモデル授業を提案し、実践をまとめ、情報発信していく。

・最後になるが、この協議会は、

○全国で活躍する有識者の知見と先見性

○学校現場の実践と現実的な課題

○それを支えながら支援いただく、市町村教育委員会の政策

が共有され、長野県のICT、学びの充実の方向性が示される、「オールながの」の取組である。積極的にご意見頂ければ幸い。

(2) 担当からの説明・連絡事項

【松坂指導主事】

○GIGA スクール オンライン研修 in 千曲市、in 安曇野市実施報告について

- ・屋代高校附属中、千曲市立戸倉小での授業公開、情報交換会、講演のべ約330人参加。
- ・安曇野市立穂高東中、同豊科南小での授業公開、情報交換会、講演のべ約150人参加。
- ・両方とも満足度が高く、ご意見ご質問も多数いただいた。
- ・次回は南信での開催を予定している。

○令和4年度全国学力学習状況調査「児童生徒質問紙」ICTに関する質問の回答状況について

- ・小学校についてはスタッフ、サポート体制は良好だが、活用方法については課題が残る。
- ・先生と児童、児童同士でのクラウドを想定した双方向での利用も苦戦している。
- ・中学校については活用、調べ学習ともに利用は全国以上で、まとめ・発表・表現・やりとりも良好。特に外部とのやりとりが良好となっている。
- ・環境が整い、研修・サポートが整ってきている。まさにこれから目標でもある活用につながっていただくと考えている。

【畠山主査】

○長野県GIGAスクール運営支援センター連携会議について案内（本推進協議会終了後に実施）

(3) 協議（司会：島田教授）

1) GIGA スクール構想の実現に向けた最新情報

【東原特任教授】

国の動向を三点お伝えしたい。

<データ活用について>

- ・様々な情報を教育委員会が把握し、学校等と共有しており課題解決に役立つ事例を

紹介したい。

- ・例えば中学校の検索データでネガティブな検索が増えているが、学校のほうも問題の把握はしており、それにつながる原因究明にも役立った。
- ・また、バッテリーの劣化についての情報があつたため調べてみたところ、充電状況を見てみると生徒自身が朝の充電を怠っていたということが判明し、児童生徒への指導に役立ったという事例もある。

<学習者用デジタル教科書について>

- ・学年による使い方の違いが見えてきた。長野県でもデータ活用をされているところ、もしくは困っているところがあれば、この会で共有できれば。
- ・紙の教科書をデジタル化したもののみがデジタル教科書と位置付けられている。その他のものは副教材扱いとなり、それらリッチコンテンツは有償になる可能性はなくはない。デジタル副教材の予算取りを考えたほうがよい。

<文部科学省アドバイザー事業について>

- ・明日26日、30日にあるので多くの方にご参加いただければ。昨年度に比べて多くの方に視聴いただいているので、是非参加いただきたい。

2) 市町村教育委員会や現場の先生方より GIGA スクール構想の実現に向けた取組の共有 (ICT、クラウドを活用した授業改善について)

【上田市立第六中・藤井校長】

- ・理科でデジタルワークシートを配布し、授業の序盤で説明のみを行い、その後の実験・考察を生徒のみでやり遂げるといった試みをしている。もう一つは生徒の総合判断について ICT を活用して行っている。
- ・教育課程研究協議会で小学校の先生方の取組で、オンライン動画編集ツールを活用している。

【飯田市立鼎中・斉藤校長】

- ・個別最適な学びへの活用ということで AI ドリルを活用している。また、英語の学習者用デジタル教科書を使用し、個別の音読練習に活用している。
- ・共同的な学びへの活用についてはジャムボードを使用し、共同編集を利用し、課題を整理している。また、その前段としてフォームに生徒の考えを書き込み、スプレッドシートで情報共有を行い授業に臨むということもしている。
- ・学びの記録として、毎時間の作成を写真に撮り、スライド状にして残すということもしている。

【塩尻市立檜川小中・山本校長】

- ・普段の授業の中で生徒が日々の活動をロイロノートで記録していく、共有していくということを行って日常的に行っている。
- ・児童生徒数が少ない学校だが、夏休み中に一人一課題を紹介し合おうということで、生徒同士、先生の一人一研究を紹介する等、休み中であっても端末活用を行えた。

【須坂市立東中・北原教諭】

- ・個別最適な学びの推進ということで2年前から端末を導入し共同編集を行っている。今年度は単元の学習について、精査し、生徒に開示し、生徒たちが必要に応じて端末を活用していただけるように変わってきている。
- ・生徒たちが自分たちが必要なタイミングで使用していただけるようにできれば。

【長野市立朝陽小・舞澤教諭】

- ・一人一公開の中で、ICT を使用しているが、ICT 使用が目的にならないよう、有効な手立てとして用いられるよう目指している。

【佐久市立中込中・瀬下教諭】

- ・佐久市の取組として、情報教育委員会を設けている。年に何回か開催し、GIGA 端末について協議している。現場の職員だけではなく、教育委員会、業者の方々にも参加いただき、日々の困ったことをできるだけ早く情報共有し、対応できるようにしている。
- ・本校では同時共同編集や授業改善まで、職員の意識が追いついていないというのが現状。
- ・一方、生徒はどんどん慣れてきており、学級活動や生徒会活動等でフォームを使ったアンケート収集等、使用している。

【塩尻市立広丘小・波場教諭】

- ・先生たちが普段使いをしていこう、その中で得られたものを他の先生や学年に共有していこうということで取り組んでいる。
- ・小学校は Google のアカウントが発行されたため、今まで使用してこなかったジャムボードやスプレッドシートを使えるようになったため、それらを使用し同時共同編集を進めていければと考えている。
- ・子供たちが熱心に取り組んだ内容や調べたものをプレゼンで発表し合うという使い方をしていいる他、動画をうまく使ってアドバイスをし合う等学習に利用している。
- ・また、指導者用デジタル教科書がみられるようになったため、活用していきたい。

(端末の利用状況、ネットワークの強化、支援員、セキュリティ等について)

【千曲市教委・町田様】

- ・全国学力・学習状況調査の結果から説明。利用頻度に関しては全国平均に比べて活用が進んでいるものの、学校間、学年間の二極化が進んでいる。
- ・活用が進んでいる学校を見てみると、「学級の友達と意見交換する場面」、「自分の考えをまとめ発表する場面」で活用が進んでいると見て取れる。
- ・ロイロノートの活用率をみても、4月の段階でログイン率が下がっていないというのが新しい発見。つまり、6年生が卒業し、新1年生が入学しても利用率が変わっていないことが分かる。

【須坂市教委・北村様】

- ・児童・生徒用のデジタル教科書が入っているため、それを活用して授業改善を進められるようにしている。昨年度はコロナによる臨時休校がある中で、デジタル教科書や Zoom を使用し授業を止めることなく進められた。ただ、本年度については異動されてきた先生への研修が課題となっており、国語、算数、英語の研修を行っているところ。
- ・ICT 支援員については4名いるが、学校・先生格差があり、毎週呼んでいる学校、ほとんど活用していない学校があるのが現状。

【長野市教委・中田様】

- ・昨年度来の検討課題であったネットワークの強靱化が8月で終了する。2学期以降クラウドを利用した端末の開始に向けて進めている。信大の村松先生、森下先生のご協力のもと再調査いただいたところもう少し強靱化が必要であるとのことから6月補正予算で対応予定。
- ・また、ICT 支援員についても数が十分ではない中で、カバーするために夏休み中でもオンラインで対応できるようにし、研修・サポートを行い2学期以降のクラウド利用に対応できるようにした。

【佐久市教委・菊池様】

- ・生活のあらゆる場面で ICT の活用を目指しており、教育振興計画に合わせ、情報機器ツールの活用について検討されているところ。
- ・端末利用に関しては、昨年度に比べ利用率は上がっている。授業づくりの中で ICT を使う環境、令和4年度中に Wi-fi 環境の整備等進めていければ。
- ・今後令和6年度に向けて情報セキュリティポリシーを見直し、子供たちがより使いやすい環境を整備していく予定。

【塩尻市教委・島津様】

- ・全国学力・学習状況調査について、小学校は活用が進んでいるが、中学校は低い数値のため、中学校の利活用を上げていきたいと考えている。
- ・塩筑校長会にて先生たちの生の声を集約したところ、使ってみたいが誰に聞いてよいかわからない、一歩が進まないという先生方が結構いる。そういった声を受けて、指導主事や ICT 支援員のサポートを進めながら中学校の利活用を進めていきたい。

【飯田市教委・櫻田様】

- ・全国学力・学習状況調査の結果、ほとんどの項目で県の平均を上回ることができた。ただ学校間の格差があるため、そこをなくしていきたい。
- ・ネットワークの強化については、遅延やつながらないということもあるのでアクセスポイントの増加等を行い、ゴールを明確化し、接続状況の見える化をしていきたい。また、ICT 支援員は導入していないため、教委の担当職員は増やしたがまだまだ足りない状態であり、サポートセンターの準備も進めていきたい。
- ・その他、セキュリティポリシーの見直し、校務支援システムの導入検討、図書館システムの

導入検討等についても行っていく予定。

【伊那市教委・足助様】

- ・学校 CIO 研修会をこの夏に行った。校長がリーダーシップを発揮して、各校で ICT 活用教育を進められるようにということで、同時共同編集をより意味ある学びについて研修。
- ・また、協働的な学びの展開モデルを授業にあてはめ行っている。参加された校長先生からは「自分の考えをしっかりと言葉にする学習が成立するとともに、指名により順番に発言していく授業よりも、自由に自分の意見を相手に伝えることのできる学習が成立し、深い学びにつながっていくと感じている。」等の感想が述べられている。
- ・学習者用デジタル教科書については、どのような場面で使ってよいか少々分かりにくいという意見があった。iPad のアプリと組み合わせて活用の幅を広げる取り組みを行っていけばハードルを下げ子供たちへの授業に展開できている。

【小海町教委・中島様】

- ・中学はほぼ毎日使っている。小学校は先生によって相当差があるという状況。
- ・ネットワークの強化については、7、8年前のアクセスポイントを使用していたため、改修し若干よくなった。ただ、元のサービスのスペックが低いため、高スペックのものを用意してほしいところ。

【喬木村教委・長坂様】

- ・今年度は新規事業として GIGA スクール運営支援センター事業を実施しており、地元の業者と協業してネットワークアセスメントについて進めている。喬木村で得たものを周りの自治体を巻き込んでやっていければと考えている。

(4) 充実した利活用に向けた取組

○信州大学教育学部附属次世代型学び研究開発センター

「令和4年度 GIGA スクール オンライン研修会 in 安曇野市」について

【佐藤准教授】

(中学校について)

- ・CBT を活用しており、また、デジタル教科書に慣れている。ICT を使うと言うことは当然で、その次の話（使い方、活用方法）が重要になってくる。
- ・個別最適な学習を進めていく中で、きちんと振り返りができるような学習問題が提示されている状態が好ましいと助言させていただいた。

(小学校について)

- ・操作に関する指示が多かったというのが課題として上げられる。つまり、操作に関する指示が多いということは内容に関する指示が少ないということ。
- ・また、自分のペースでやっていくときにイヤホンが必要になってくる。そういう整備も各学校で必要かと思われる。

- ・解答した生徒の結果を表示するアプリがあるが、結果のみで解答のプロセスが見られない。同時共同編集はプロセスが大事。結果だけではなくプロセスも見えるアプリを使った方が、足場掛けになりやすい。この様なことを教育委員会の方々が考えていただければ、先生たちが何のために同時共同編集をやっているのかが理解しやすくなる。

○特別支援教育課【現状の取組について】

【北島指導主事】

インクルーシブ教育について画面で説明。

- ・来年2月に「ながのICTインクルーシブフェス」を予定している。内容としては動画やパワーポイントなどでまとめた実践を公開し、先生方が使えるコンテンツ集にしたいと考えている。
- ・メンバーの構成としては特別支援学校のブロックリーダー、LD等通級指導教室担当者、言語障がい通級指導教室担当者、特別支援学級担任、通常学級担任を予定しており、学校間、学級間の連携を意識しそれぞれの実践を共有できるようにしたい。

【両川公認心理士】

- ・ICT特別支援教育に関する研修（高校対象）参加者アンケートを基に説明。
- ・情報活用能力が中学までで付いている生徒と付いていない生徒では高校に行ってから違う。立ち上げに時間がかかる場合はかなりの損失。YouTubeも案外使えない生徒、必要ないと思っている先生も結構いる。
- ・音声読み上げをオンになっていないところがあり勿体ない。
- ・一方でICTについて聞きたいというのが半数以上おり、昨年度よりも増加している。

○学びの改革支援課 教科書係【デジタル教科書実証事業の現状について】

【荒井指導主事】

- ・実証事例集と学習動画の案内。令和6年度の本格的導入に向け普及を促進するねらい。
- ・活用効果、県内の活用事例（小学校の音楽、中学校の外国語、盲学校での使用例）を紹介。
- ・デジタル教科書においてもクラウドの活用、ネットワークの強化が重要となってくる。
- ・今後の国の動向とすると、教員及び児童生徒を対象としたアンケートを2学期に実施予定。

(5) 今回のまとめと次回検討項目の整理

【松坂指導主事】

- ・(次回)各教育事務所より取組の紹介と教育課程研究協議会における授業実践の様子
- ・今後の参考にするため、Googleフォームへのアンケート記入について御協力依頼

(6) 閉会

【臼井義務教育指導係長】

- ・行政側の視点や授業実践の視点等様々な視点から、今やっていることの成果・課題等を発表いただいた。
- ・県教委、学びの改革支援課としては活用の質をどのように高めていくか、差をどの様に解消していくかが課題。差については学校、学級、先生等色々あるが、今年度は「今更なんだけど」という声を引き出してフォローできるような支援をしていければと考えている。そうでないと言出しにくい雰囲気となり、ますます差が広がってってしまう。
- ・頑張っているところ、様々なアイデアを頂き、それらを広げていくことは行っていきたいが、まだ端末がケースに入ったままという学校があるのも事実。そういうところに使え使えといっても難しく、そういった声に対しどのようにフォローできるかを考えていかなければならないと考えている。
- ・本日発表いただいた内容、事例を踏まえ、県教委として頑張っ参りたい。